

魅力

体験・イベント

旬魚とほんもの体験で集客・滞在力アップ

平成15年からスタートした体験型旅行の受入により、域外客がほぼゼロであった地域を活性化。入り込み客数が、年々着実に伸びてきている。平成18年度には、第4回オーライ！ニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)を受賞した。その他、平成17年度からグルメでの集客を図るため、旬魚グルメまつりを開催。新しくできた「道の駅」松浦海のふるさと館と連携し、交流人口拡大を図っている。



和牛農家体験の様子

宿泊者数

松浦市統計

平成14年(2002)	3.2万人
平成15年(2003)	3.3万人
平成16年(2004)	4.0万人
平成17年(2005)	4.2万人
平成18年(2006)	5.3万人(合併後7万3千人)

体験型旅行受入数

松浦体験型旅行協議会統計

平成15年	1,000人
平成16年	3,300人
平成17年	4,500人
平成18年	10,000人

取組

体験・イベント開催

体験型旅行事業

松浦市固有の文化や自然、昔から受け継がれた生業やその技術等を主に都市部に住む人々に体験してもらうことによって交流人口を拡大し、地域経済における需要創造型の産業創出を目指し、平成14年に松浦体験型旅行協議会を設立。体験メニューの掘り起こしからインストラクターの養成、営業活動を行い、その後受入エリアを拡大し、NPO法人体験観光ネットワーク松浦党を設立した。

松浦市は自然条件に恵まれており、伊万里湾を活かした海の体験を中心に水産、農林、商工等様々な分野に渉る造られた体験ではない自然そのままの「ほんなもん(本物)」体験を行っており、現在90のメニューと受入能力1日最大2,000名、体験エリア13地区800名の担い手で受け入れられるまでになり、平成18年には平戸市、北松地区を含めた広域エリアにおいて受け入れ数が約1万人に達した。今後もプログラムの開発とインストラクターの育成、営業を展開する。

ほんなもん 松浦党の里 体験



定地網漁体験の様子



稲刈り体験の様子

旬魚を活かした観光

平成17年度から新鮮な魚、特にブランド魚である「旬あじ」「旬さば」、日本一の生産量を誇る「養殖とらふぐ」を地元で食してもらい、交流人口の拡大を図ろうと、旬魚グルメまつりを開催。一般客や旅行会社への認知度もあがり、現在ではツアーやピーターも増加している。平成17年に鷹島町、福島町と合併したことにより、参加店舗数も増加。地域活性化に寄与している。このまつりを中心に、現在では広域的な観光ルートの開発や活発な情報発信を実施している。

また、平成17年に完成した、道の駅「松浦海のふるさと館」には日本有数の鰹、鯖の水揚げ量を誇る松浦魚市場から、毎日その日に水揚げされた新鮮な鮮魚が並び、この他にも水産加工品、農産物等豊富な品も揃い、インフォメーション機能と併せ、今ではツアーをはじめ一般観光客の交流拠点となっている。



旬魚グルメまつりのチラシ